

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 11 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2012～2016

課題番号：24401009

研究課題名(和文) 中央アジアにおけるソ連時代の記憶：過去と現在の照射

研究課題名(英文) Soviet Memories in Central Asia: Reflection of Past and Present

研究代表者

小松 久男 (Komatsu, Hisao)

東京外国語大学・その他部局等・教授

研究者番号：30138622

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中央アジアのカザフスタンにおいてソ連時代を生きた世代の人々を訪ねてインタビューを行って当時の社会や生活の記憶を収録し、これを分析するものであった。ソ連時代については、すでにソ連期に現代史研究の成果があり、また共産党の蓄積した膨大な文書資料があるが、これらはソ連の政治的なイデオロギーに強く規定されたものである。また、ソ連解体後の各国のナショナル・ヒストリーでは、独立との対比でソ連時代を否定的に描くことが多く、ソ連時代を正當に評価するには十分ではない。そこで、このような偏りを避けるために人々の記憶に着目した研究の結果、ソ連時代を考察するための重要な参照軸を得ることができた。

研究成果の概要(英文)：This project aimed to collect people's memory of the Soviet era through conducting interviews with those who lived in Soviet Kazakhstan and to analyze them. As to the Soviet era in Central Asia we have a rich Soviet historiography as well as a great amount of Communist party archives. However they are too affected by the political ideology to reconstruct the history of the Soviet era. After the fall of the Soviet Union newly born national history in each independent republic tended to present negative aspects of the time. Our project focused on people's memory in order to avoid any political tendencies provided some important reference points for understanding the Soviet era.

研究分野：中央アジア近現代史

キーワード：記憶 ソ連 中央アジア カザフスタン 社会主義 ウズベキスタン クルグズスタン イスラーム

1. 研究開始当初の背景

旧ソ連中央アジア地域の現代史は、ソ連解体以来一定の関心を集めるようになったが、研究開始当初の時点では、世界的に見ても研究はまだ少なく、緒についたばかりであり、方法の面でも模索が続いていた。こうした研究状況のなかで生まれたのが本研究のアイデアであった。それは、中央アジアのカザフスタンとタジキスタンにおいてソ連時代を生き残った世代の人々を訪ねてインタビューを行い、人々の記憶を収録しようというものであった。

一方で、本研究の代表者、分担者そして数名の協力者は、これに先行するイスラーム地域研究プロジェクトの中で、中央アジアにおけるソ連時代の記憶について、とくにウズベキスタンとクルグズスタンを事例とした研究を行っていた。しかし、その他の三か国については手付かずであり、トルクメニスタンは当初から現地での調査活動が困難と判断されたので、本研究ではカザフスタンとタジキスタンでの調査を行うことにした。なお、本研究を開始した後で、タジキスタンもさまざまな事情により現地調査はむずかしいと判断したため、結果としてはカザフスタンのみを対象とすることになった。

2. 研究の目的

本研究は、中央アジアのカザフスタンとタジキスタンにおいてソ連時代を生き残った世代の人々を訪ねてインタビューを行い、市民の目線に立って当時の社会や生活の記憶を収録し、これを他の資料と照らし合わせて分析すること、さらにインタビューを映像資料として保存、公開することを目的とした。ソ連時代の記憶は、ソ連解体から20年を経た時点においても、現代史の理解や人々のアイデンティティにおいて重要な意味を持っており、かつてのソ連史学や新独立国家のナショナル・ヒストリーにおける現代史認識や叙述を相対化するための貴重な史料となりえるとともに、語り手が現在持っているアイデンティティの表現でもあると考えたからである。

3. 研究の方法

本研究ではインタビューを中心とする現地調査を行った。回答者の選定方法として採用したのは、もっとも多様な事例を扱う(maximum variation sampling)とネットワーク・サンプリング(network sampling)であり、現地研究者の知り合いや親戚ネットワークなどを活用して回答者を求めた。インタビューにあたっては同一の質問票を用い、個別のばらつきが出ないようにした。本研究が調査対象としたカザフスタンは広大な国土(中央アジアで最大の約272万平方キロ)を有することから、主要な都市を中心に調査を行った。具体的には東南部に位置する旧首都のアルマトウ、中北部にある首都アスタナ、

南部の大都市シムケント、北部の中心都市コスタナイ、東部の中心都市ウスチカメノゴルスク、西部の中心都市ウラルスクである。回答者は全部で100名を計画した。いずれのインタビューでも、回答者への聞き取り調査を可能な限りビデオカメラで収録し、これらの文字化と分析、そして将来の保存と公開にそなえることにした。なお、インタビューはカザフスタン出身の研究協力者 Guljanat K. Ercilasun 准教授(トルコ、ガーズィー大学)が担当した。

4. 研究成果

本研究では合計79名の回答者の協力を得ることができた。回答者は、いずれも1920~40年代の生まれで、民族的にはカザフスタンの多民族性を反映してカザフ人、ロシア人、クルド人、タタール人、ウイグル人、ウクライナ人、コサックなどと多様である。ソ連時代に従っていた職業も、大学教授、学校教員、ジャーナリスト、主婦、コルホーズ員、運転手、ジャーナリスト、農業技師、警官などと多彩である。当時は共産党員であった回答者も少なくない。男女比は、48:31であった。予定の100名には達しなかったが、地域性も含めてバランスのとれた回答者を得られたと考えている。今回収録された回答は、今後とも価値ある資料データベースとして活用していきたいと考えている。

本研究の具体的な研究成果としては、Timur Dadabaev and Hisao Komatsu eds., *Kazakhstan, Kyrgyzstan, and Uzbekistan: Life and Politics during the Soviet Era*, Palgrave Macmillan, 2017, 148 pp.をあげることができる。本書は、研究代表者、分担者、協力者のすべてが寄稿した論文集であり、全7章で構成されている。本書にも見られるとおり、本研究の成果は次の3点にまとめることができる。

(1) 今回収録した人々の記憶は、ソ連時代の中央アジア史上の重要な問題、すなわち1930~40年代の農業集団化にともなう大飢饉、大戦後の農業開発(処女地開発)、イスラームの信仰と儀礼の存続、スターリン期の個人崇拜、ペレストロイカのもたらした変動などについてユニークな史料を提供することが確認された。これらはソ連期の共産党文書などには見られないものである。

(2) 今回カザフスタンで収録された資料は、ウズベキスタンやクルグズスタン(キルギス)の資料と比較対照することによって、中央アジア地域研究に俯瞰的な視座からアプローチする上でも有効であることがわかった。各国ごとに特徴があることは事実だが、各国別の研究を進めるだけでは、とりわけ同じソ連の時代を共有した中央アジアの全体像は見えてこないであろう。

(3) 人々の記憶は必ずしも過去の記録ではなく、語り手の現在の境遇や考え方によって「創造」される面のあることも確認された。これはおよそあらゆる記憶に関わることであり、記憶を史料として扱う際には十分な注意が必要である。しかし、このように記憶が過去だけでなく、現代も照射するとすれば、その資料的な価値はますます大きいともいえるだろう。

本研究では、その進捗状況に合わせて国際シンポジウムや国際セミナーへの参加、ならびに論文発表を通じて、つねに内外の研究者と意見交換をはかることに努めた。たとえば、2015年9月に東京で開催された国際シンポジウム *New Horizons in Islamic Area Studies: Asian Perspectives and Global Dynamics* では、研究代表者、分担者、協力者の全員が参加して *Soviet-era Memories in Central Asia* という単独のセッションを開催した。この間にソ連時代の記憶を活用する中央アジア地域研究が国際的にも進展したことは心強いことである。前記の論文集の刊行後、われわれはカザフスタンの KIMEP 大学（アルマトゥ市）Central Asian Studies Center の協力を得て本書の報告・討論会を開催し、多くの積極的なコメントをもらうことができた。今後はソ連時代の記憶に関する研究が現地の研究者によってさらに進展することを期待したい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 24 件)

Timur Dadabaev, “Evaluations of Perestroika in Post-Soviet Central Asia: Public Views in Contemporary Uzbekistan, Kazakhstan and Kyrgyzstan”, *Communist and Post-Communist Studies*, 49 (2), 2016, pp.179-192. DOI: 10.1016/j.postcomstud.2016.03.001 査読あり

小松久男「トイとイスラーム」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』999号, 2015年, 2-17頁, 査読なし

小松久男「歴史の中の中央アジア—ゼンギアタからの眺望」『国際問題』647号, 2015年, 6-15頁, 査読なし

Timur Dadabaev, “Religiosity and Soviet “Modernization” in Central Asia: Locating religious traditions and rituals in recollections of anti-religious policies in Uzbekistan”, *Religion, State and Society*, Volume 42, Issue 4, 2014, pp. 328-353.
<http://dx.doi.org/10.1080/09637494.2014.980092>
査読あり

Timur Dadabaev, “On Oral History of the Soviet Past in Central Asia: Re-Collecting, Reflecting and Re-Imagining”, Schlyter, Birgit (ed.), *Historiography and National-Building among Turkic Populations*, Vol. 5, Swedish Research Institute in Istanbul, 2014, pp.13-31, 査読なし

小松久男「中央アジア地域研究の試み—ソ連時代の記憶を中心に」『*学術の動向*』Vol.19, No.8, 2014年, 54-58頁, 査読なし

Timur Dadabaev, “The Role and Place of Oral History in Central Asian Studies”, *Uzbekistan Initiative Papers (Elliot School of International Affairs, Washington University/CIDOB Center for International Affairs, Barcelona)*, No. 13, March 2014, pp.1-7, 査読あり

Timur Dadabaev, “Recollections of Emerging Hybrid Ethnic Identities in Soviet Central Asia: The case of Uzbekistan”, *Nationalities Papers: The Journal of Nationalism and Ethnicity*, Volume 41, Issue 6, 2013, pp.1026-1048, 査読あり

Timur Dadabaev, “Community Life, Memory and a Changing Nature of Mahalla Identity in Uzbekistan”, *Journal of Eurasian Studies*, Vol.4, No.2, 2013, pp.181-196, 査読あり

Timur Dadabaev, “Between the State and Society: Position of Mahallas in Uzbekistan”, *Eurasia Twenty Years After*, 2012, pp.153-171, 査読あり

〔学会発表〕(計 5 件)

小松久男「近現代中央アジアにおけるイスラームの展開」国際シンポジウム「中央アジア地域研究の地平をひらく」2016年12月10日、東京外国語大学（東京都府中市）

Timur Dadabaev, “Dialogue of Past and Present in Remembering Soviet Past”, *The Islamic Studies 5th International Conference*, 2015年9月12日、上智大学（東京都新宿区）

Timur Dadabaev and Sabina Insebayeva, “New Names, Old Habits: Finding Difficulties in Transforming Political Culture in Central Asia”, *Cambridge Central Asian Forum*, 2014年3月14日, Cambridge (UK)

〔図書〕(計 6 件)

Timur Dadabaev and Hisao Komatsu eds., *Palgrave Macmillan, Kazakhstan, Kyrgyzstan, and Uzbekistan: Life and Politics during the Soviet Era*, 2017, 148pp.

Timur Dadabaev, Routledge, Taylor and

Francis, Identity and Memory in Post-Soviet Central Asia, 2015, 214 pp.

小松久男、山川出版社、『激動の中のイスラーム：中央アジア近現代史』2014年、124頁
〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小松 久男 (KOMATSU, Hisao)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・特任教授
研究者番号：30138622

(2) 研究分担者

ティムール・ダダバエフ (DADABAEV, Timur)
筑波大学・人文社会科学研究科・准教授
研究者番号：10376626

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

ゲルジャナト・K・エルジラスン (ERCILASUN, Guljanat K.)
トルコ共和国・ガーズィー大学・准教授
コヌラルプ・エルジラスン (ERCILASUN, Konuralp)
トルコ共和国・ガーズィー大学・教授
イルハン・シャーヒン (SAHIN, Ilhan)
トルコ共和国・イスタンブル・アイドゥン大学・教授